

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和6年3月31日現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農業担い手リーダー 新たなメンバーを迎え、各団体の通常総会を開催

飛騨地域の農業担い手リーダー3団体の通常総会が、農林事務所が支援するなか、開催された。

指導農業士、青年農業士は第47回、女性農業経営アドバイザーは第26回総会となり、長い歴史を積み重ねている。

今回、指導農業士5名、青年農業士3名、アドバイザー3名の新たな会員を迎えた。

農業担い手リーダーは、飛騨地域の研修指導者として新規就農者育成の中核となっている。今後、新規会員へ指導者スキルを伝承することで、更に強固な体制を作り、地域へ貢献していくことが期待される。



【指導農業士通常総会】

■ひだあねさ特産グループ アスモ高山店でフェアを開催

3月9、10日、飛騨地域の女性農業者加工グループ「ひだあねさ特産グループ」のフェアが、アスモ高山店2階で開催された。

2日間で9グループが出品し、農産加工品や手芸品などを販売した。よしま農園は新商品のハリッサ（香辛料）やチョコ甘酒、飛騨高山うるっちは数量限定のえごま油を販売した。

購入金額1,000円ごとに参加できるガラガラ抽選会や、コロナ禍で自粛していた試食も行い、多くの客で賑わった。

商品を購入した方から、「どこにも売っておらず探していた商品が購入できた」という声もあり、飛騨地域の特産品をアピールするよい機会となった。

農業普及課では、引き続き6次産業化、女性農業者の活動について、関係機関と連携し支援していく。



【こだわりの商品を販売】

ぎふ農畜産物のブランド展開

■飛騨蔬菜出荷組合 「販売額100億円達成記念大会」開催

飛騨蔬菜出荷組合では今年度、当組合の目標である105億円を上回る108億円を達成し、3月7日に販売額100億円達成記念大会が開催された。記念大会では、歴代の蔬菜出荷組合長はじめ関係機関へ感謝状が贈呈された。

単価・収量とも順調に推移し販売額前年比124%の夏秋トマトをはじめ、ほうれんそうと特産品目もそれぞれ販売額前年比104%であった。これはひとえに、飛騨蔬菜出荷組合の組合員・各地区・各部会の底力と組織力を結集した結果である。

農業普及課では今後も、各品目の栽培管理及び各経営体の経営管理を中心に継続して支援する。



【来賓祝辞を述べる所長】

■ほうれんそう 令和6年産ほうれんそうの収穫始まる

3月25日頃から、飛騨地域における令和6年産ほうれんそうの本格的な収穫が開始された。

2月までは、暖冬により降雪量・積雪量とも少なく、令和5年産に近い気象条件で推移したため、昨年と同様に令和6年産の収穫も早まるかと思われた。しかし、3月に入り低温・降雪の影響により、昨年と比べほうれんそうの生育が約1週間遅れることとなった。

農業普及課では、温度や肥培の管理とともに、病虫害対策の徹底により、ほうれんそうの安定した生産・出荷に対する栽培技術について支援する。



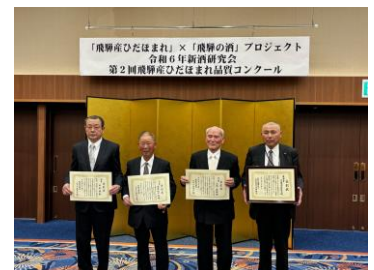
【収穫が始まったハウス】

■水稲 「第2回ひだほまれ品質コンクール」表彰式

3月4日、「第2回ひだほまれ品質コンクール」の表彰式が開催された。このコンクールの目的は、「ひだほまれ」の品質の底上げにより、産地全体でニーズに合った酒造り・米作りを目指すことである。

農業普及課や酒造組合等の審査により、金賞3名、入賞3名、団体賞1組合が選ばれ、表彰された。金賞を受賞した一人は「ひだほまれ」の県の品種育成に携わった方で、酒造組合からその功績について感謝の言葉が贈られた。

農業普及課では、「ひだほまれ」が飛騨の酒米として今後も愛され続けるように栽培技術情報の提供等の支援を行っていく。



【受賞した生産者】